

# 国際交流



「むなかた翼の会」が企画した

## 金海市訪問



国際交流は市民が主役

むなかた翼の会は、市の「人づくりでまちづくり事業」として、姉妹都市の韓国・金海（キム）市との国際交流事業を平成21年度から開始しました。これまで、金海市の親善大使を迎えて「韓国料理教室」や「市民活動交流まつりでの交流イベント」の他にも、韓国の文化への理解をより深めるために「ハングル講座」などを実施しています。そして今回、市民レベルでの国際交流をより発展させようと4月13日から同15日までの3日間、ハングル講座の受講者ら33人の市民が金海市を訪問しました。

■問い合わせ先  
市民活動交流室 ☎(36)0311

### 金海市の温かい対応に感激

訪問団が釜山港に到着すると、歴代の金海市の親善大使のみなさんが出迎え、とても上手な日本語で観光名所を案内してくれました。

その後、「第35回伽耶

（かや）文化祝祭」の開幕式に参加。そこで訪問団が紹介され、金海市民のみなさんに今回の訪問をPRしました。

翌日は、金海市役所を訪問。「姉妹都市交流では、親善大使など市民レベルで交流していることもあり、今回の訪問はとてうれいす」と職員から熱烈な歓迎を受けました。訪問団にとって今回の訪問は、ハングル講座の成果も生かされるなど、とても有意義な時間になりました。



金海市役所で職員らから熱烈な歓迎を受ける訪問団員（右端）

### 今回の訪問を谷井市長や市民に報告

訪問団が4月25日、今回の訪問を谷井博美市長に報告するため、市役所を訪れました。出席者からは「市の広報紙を見て、ずっと行きたいと思っていた。今回参加して、思った以上にきれいなまちだと分かりました」「金海市民の親切さや歓迎にとても感激しました」「金海市が姉妹都市と知らない市民がまだ多いので、今回の経験を生かして子どもたちに伝えていきたい」などの感想が聞かれました。

谷井市長は「姉妹都市交流は、市民同士の交流が一番大切。宗像市と金海市ほど熱心に姉妹都市交流が続いているところはありません。これからも、市民



「ゆいフェスタ」でチマチヨゴリを着て来場者に金海市の魅力を紹介する訪問団員

また、市民活動交流館で6月25日に開催された「ゆいフェスタ2011」では、写真展示などで今回の訪問の様子を来場者に紹介しました。この日は、訪問ツアーに参加した多くの人がスタッフとして参加。民族衣装のチマチヨゴリを身にまとい、「来場者へのもてなし」「韓国料理の食材販売」などをするなかで、訪問ツアー参加者同士の交流も深まっていた。

今回の訪問で生まれた「つながり」がさらに広がっていくことで、今後、姉妹都市交流がより意義深いものになっていくことがとても楽しみです。

## 市出身の海外青年協力隊員 豊岡孝章さんが指導する中国少年野球チームが来宗



試合中、選手たちに声を掛ける豊岡さん（中央）

国際協力機構（JICA）の海外青年協力隊員で、宗像市出身の豊岡孝章さん（24歳）が指導する中国河北省石家荘市（かほくしょうせつかそうし）の少年野球チーム（総勢23人）が7月22日～同25日、宗像市へ遠征。市内の少年野球チームとの親善試合や合同練習、ホームステイなどで交流を深めました。

豊岡さんは「自分が子どものころから慣れ親しんできた野球を通して、たくさんのことを学んでほしい」と、昨年中国で少年野球チームを指導しています。今回は、「日本の野球をする環境や子どもたちの礼儀、マナーを中国の子どもたちにも伝えたい」と遠征を企画。東日本大震災の影響で、日本へ行くことを懸念する保護者がいるなど実現が危ぶまれた時期もありましたが、大勢の人の協力で今回の遠征が実現しました。

市内の少年野球チームとの親善試合を通して、「試合に対する心構えや態度など、中国の子どもたちにとっていい刺激になりました」と豊岡さん。「もう少しレベルアップして、また宗像に来てほしい」と相手チームから声を掛けられ、「また頑張ろうと思いました」と笑顔で話してくれました。

ひとときの「里帰り」でしたが、豊岡さんだけでなく日中の子どもたちにとって、とても思い出深い夏休みになったようでした。

■問い合わせ先 秘書課 ☎(36)0890



平成23年度 国から…  
「住宅用太陽光発電向け補助金制度」  
補助金額 **4.8** 万円/kWh  
受付期間 平成23年4月12日～12月22日  
補助予定件数：全国にて約17万件

平成23年度 宗像市から…  
「宗像市住宅用太陽光発電システム設置費補助制度」  
補助金額 **2.5** 万円/kWh  
(上限10万円)  
受付期間 平成23年4月1日～申請が予算額に達した時点で終了

「節電」の新しいスタイル  
これまで「節電」というと、電気をこまめに消したり、コンセントを抜いたり、なんか面倒で後ろ向きな感じがしませんでしたか？いま、新しい「節電」のスタイルとして太陽光発電システムが注目されています。太陽という自然エネルギーから電気をつくるクリーン発電。しかも余った電気を電力会社で買ってもいい。まるで自宅が小さな発電所になったようです。昼間の電気は自給自足し、余った電気は社会に還元する。「節電」しながら社会貢献。まさにこれからのライフスタイルといえます。

**国と宗像市の補助金を活用！**  
太陽光発電システムの導入を、国や宗像市が公的補助金制度という形で支援しています。この制度を活用することで導入費用の自己負担が少なくなります。

広告 「自宅が発電！」  
住宅用太陽光発電システムは、環境と省エネに配慮した小さな発電所です。



登山家 栗城史多氏

お問い合わせ先  
太陽光発電専門店の当店へ！  
地域密着、しかも専門店だからできる独自のサービスをはじめ、お客様が安心してお任せいただける技術、ノウハウで太陽光発電の導入をお手伝いします。  
施工件数1,897件（平成23年6月現在）  
アフターサービス10年間無料定期点検（年次点検、電気測定試験、モジュールクリーニングアップ等）

(株)日本ホットライフ 〒812-0041 福岡市博多区吉塚4-16-29  
フリーダイヤル おひろ よいな  
**0120-026-417**  
http://www.n-hotlife.com  
ご遠慮なく「むなかたタウンプレスを見た」とお伝えいただいた方には、現地調査、及び御見取りを無料で対応いたします。

平成23年度  
「住宅用太陽光発電向け余剰電力買取制度」  
買取期間 **10** 年間  
受給開始から  
(11年目以降は、電力会社が定める価格となります)

買取価格 **42** 円/kWh  
(住宅用発電能力10kW未満の場合)

対象期間 平成23年4月1日～平成24年3月31日 申請受付分まで

余った電気が売れる!?  
ふつう電気代は電力会社社に払うものと思っっていますよね。でも太陽光発電システムで発電した電気の内、余った電気は無駄にせず、電力会社が買い取ってくれるのです。平成23年度申請受付分の買取価格は42円/kWhで、受給開始から10年間その価格で電力会社で買い取ってくれる制度です。(11年目以降は電力会社が定める買取価格となります)